

入選

水の気持ち

栃木県 芳賀町立芳賀中学校

二年 石川 絢菜

私たち人間に怒ったり、喜んだり、悲しんだりする感情があるように水にも気持ちがあるのかもしれない。

水は水道の蛇口をひねればすぐに出てくるとあたりまえのように思っていた。水のない生活なんて考えたこともなかったから、水を出したまま歯をみがいたり、シャワーを出したまま髪を洗ったりしていた。でもある日突然、水のない生活はやってきた。

平成二十三年三月十一日、東日本大震災が日本を襲った。私の住む栃木県は、津波こそなかったものの私の家がある芳賀町は、電気と水が共に止まった。電気は翌日にはもどったが水はまだもどらなかった。お風呂どころか、トイレも流せないで、私と母は井戸水を使っている実家に、家にあつたあたりつたけのペットボトルをもって水をもらいにいった。トイレの水を流すためにタンクに水をいれた。だが、二本入れてもうまく流れない。トイレの水を流すのにこんなに水を使うんだ、と驚いた。このとき私は水は怒っているのかもしれないなと思った。水を大切に使うことを忘れてしまった私に水の大切さを教えてくれているのかもしれない。この日から、私の水に対する考えが変わった。水は私たちのかぎりある資源で、きれいな水が使え、そして飲めることに感謝しなければいけないと考えるようになった。そしてボランティアも行った。

野焼きをしたあとの真っ黒な河原を友達と一緒に掃除をした。川の水はきれいに澄んでいて、太陽の光がきらきらと水面に反射して光っていた。それでも草の間には、たくさんゴミが落ちていた。空き缶やペットボトル、ビニール袋や弁当の入れ物などが落ちていた。拾い終わったあと、水道で手を洗った。その水は、小さいところに、転んでケガをしたときに洗い流してくれた冷たいきれいな水にそっくりの優しいなめらかな水だった。水がありがとうと私に言っているような気がした。

私の心にやきついて消えない写真がある。アフリカのやせこけた子供が涙を流しながら井戸から出た水を全身で受け止めている写真だ。私は一言に水とい

っても、水には種類があると思う。井戸や水道から出る水、私たちが生きるために必要な水だ。子供が流した涙、人間が悲しみやうれしさなどの自分の感情をあらわす水だ。東日本大震災で家や人々を流していった津波も、茶色くにごった水だった。地球上の生き物はみな、水と共に生きているのだ。

水はときには人々の命をうばい、家や建物を壊す津波となる。だが、雨や川、海、そして飲み水など生き物たちが生きていくうえで大切なものともなる。私たちはたくさん水に助けられて生きている。私たちは水に何ができるだろうか。節水はもちろん、水を汚さないように心がけ、ポイ捨てをしないようにし、そして水が循環しやすい環境をつくる。これが今の私にできる、最低限のことだ。

水は私たち生き物の命の源であり、限りある資源だ。私たちには水を守り、きれいにする義務があると思う。休み時間、水道の前を通りかかると、チョロチョロと細く水が流れていた。私はきゅっと強く栓を止めた。津波も、涙も、雨も、川も、海も、そして飲み水も、意味は違いますがすべて水だ。私たちは生まれてから、死ぬまでずっと水と共に生きていくのだ。私が止めた水道から一滴、ボタンと水がしたたる。ほっとするような安心するような、耳に心地よい音だ。水が「ありがとう」といつているような気がした。

入選

心の中まで美しくできる水の力

栃木県 真岡市立真岡東中学校

二年 大塚 悠花

「うわあ……！」
見たすかぎりに広がる水田、私のまわりを取り囲むおいしい空気、そして一面に広がる数えきれないほどの小さな光。なんて美しいのだろう。自然とこの景色に心をうばわれてしまう。ここは私の一番好きな場所、ホタルがいて自然があふれた所だ。

私は小学生のころ、生まれて初めてホタルを見た。栃木県の茂木町に住む親せきの家へ泊まりに行った時の事だ。茂木は田んぼや林がたくさんあって、豊かな自然であふれている。中学生になった今でもあの景色は鮮明に記憶に残っている。

「ホタルってきれいでしょ。でもホタルはきれいな水と豊かな自然がないと生きていけないんだよ。」

と親せきの人が教えてくれた。その言葉の意味をよく考えてみると、水がきれいな地域がどれほど少ないかがわかる。水が汚いというだけで死んでしまうホタルの事を考えると、どんどん水や環境を汚してしまう人間はどうかと疑問に思う。

私の母が子供のころは今よりもっとたくさんの場所でホタルを見ることができたそう。これからホタルの数が減ってしまうとなると、普段から水をきれいに使うことを意識していない私は罪悪感を感じる。水を汚しているのは人間なのだから。水があるかないか、きれいか汚いかに人間やたくさんの生き物の命がかかっている。そう考えると、「水」という言葉に命の重みを感じる。世界中でもホタルが見られる国はとも少ない。ホタルを見ることが出来る私はとても自然に恵まれていると思う。私の中ではごく普通のことだが、とても難しいことだと知った時はとても驚いた。

水をきれいにするだけで人間とたくさんの生き物や植物が同じ地球上で共存することができると思う。水は環境の保護にも大きくつながる。環境をきれいにするこゝとによってできる景色はとても美しく、感動的でもある。それによ

て人々の笑顔が増えるのであれば、世界中の人々に水をきれいに使うことの大切さをもっとよく知って欲しい。そしてもっと水をきれいにしたい。それを実現するには一人一人が水を大切にしようと思ひながら生活していく事が重要だと思ひ。工場の煙や自動車の排気ガスで汚れてしまった環境や、ゴミのポイ捨てで汚染されてしまった川の水も少しづつきれいにしていきたい。そして人々の心の中にある美しいホタルの景色を守り、まだホタルを見たことがない人達の心にもきれいなホタルの記憶を残していけたら世界中の人々の心が美しくなっていくと思ひ。

「水の惑星」と言われる、青く澄んだ地球。水資源の豊かな国もあれば、生きるための一滴を必死で求めている国もある。幸いにも日本は、水資源に恵まれた国だ。清流・せせらぎ、湧水など「水」にちなんだ言葉もたくさんある。豊かな風土がたくさんの言葉を生み出した。ホタルの住める「水」を守るといふこと、それは私達の故郷を守るといふことでもあり、豊かな心を育むといふことでもある。ここに生きる一人として、水の大切さ・ありがたさをいつも心の中に留めておきたいと思ひている。